● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（１）子育ち・親育ちの支援の充実
施策	①　安心して生み育てられる環境の充実

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①待機児童については一旦解消したものの、「こども誰でも通園制度」の開始などにより、保育の受け皿のさらなる確保が求められます。 ②ひとり親家庭では、子育てと仕事の両立が困難なことなどの理由により、経済的に困窮することがあるため支援が必要です。 ③核家族世帯やひとり親世帯の割合が県内割合より高く、また妻の就業率も高いことから、働きながら安心して子育てができる環境づくりや就学後のこどもの居場所が求められます。	・保育施設の充実が必要 ・場所によって保育園の数に差がある状況 ・職場（企業等）との連携も必要ではないか ・民生委員に主任児童委員がいることをアピールする必要あり ・親が病気になった時に、子を見てくれるところがない ・病児・病後児保育施設が足りない（現状一つしかない） ・人口増の目標は20万人に設定し、子育て政策を充実させることが必要

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶県と連携しながら、保育園・幼稚園等や保育士への支援を行い、安全な保育環境の確保に努めます。 ❷経済的に課題を抱えているひとり親家庭への支援・取組を行い、自立につなげていきます。 ❸民間活力を生かしながら、各種ニーズに応じたサービスの提供に努め、子育て環境のさらなる充実を図ります。	❸の「民間活力」とは何か？

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）各種支援制度の実施による保育士確保対策	・保育士の増加（保育士の確保が必須）　・保育士給与の増加　・潜在保育士の掘り起こしなど ・支援施策情報の周知
（２）施設の改修等による保育施設の整備	―
（３）就労支援や相談機能の強化等によるひとり親家庭等の自立促進	・（３）～の強化→～の拡充に修正　※ 支援の種類を増やす ・今まで相談に来ることができなかった人、声を上げられない人の声を聞き、支援できる制度が必要 ・学習サポートの充実（送り迎えサービスなど）　・子どもの病気のとき、子どもに寄り添える親の体制を充実 ・支援施策情報の周知　・ひとり親家庭の人が集まれる場所をつくり、地域全体で子どもを育てる場をつくる
（４）病児・病後児保育施設や放課後児童クラブの適正管理や民間資源の活用	・病児・病後児保育施設を小児科と併設（福岡市を参考に） ・病児保育が利用しづらい。医師の診察を受けた後に熱が下がったが、登校基準に満たないので病児保育を利用したいなどの場合、利用には医師の診断書が必要であるため再度診察してから予約をする必要がある。病院併設の病児保育があると利用しやすい。（小児科） ・児童クラブのあり方、勉強や遊びだけでなく、アート面の時間を確保。糸島には自称アーティストはいるはず ・年末年始やお盆もあずけやすくしてほしい
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・AIによる待機児童マッチング　・保育費（２人目～）の手当の拡充

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（１）子育ち・親育ちの支援の充実
施策	②　妊娠から出産・子育ての切れ目のない支援

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①年間出生数は減少傾向にあり、子どもを安心して生み育てられる環境の充実が、より一層求められます。 ②核家族化の進行等に伴う育児のサポート不足などから、母親の心身の過労や子育て家庭の負担感が増大しています。 ③本市の児童相談の約５割が児童虐待に係る相談となっており、増加傾向にあります。 ④こども計画策定ニーズ調査結果において、子どもの成長発達・育児の困りごとは、０歳児では「子どもの成長」が最も高く、幼児期では、「しつけや生活態度」に関連するものが多い状況であり、支援体制の充実が求められます。	・糸島市に産（婦人）科の数が少ない、利用しづらい ・せっかくいいことをしているのに、やっていることが市民に伝わっていない。母子手帳交付時等を活用する ・大学に進学する人が増え、進学にお金がかかり、子どもを生もうとする人が減る ・こんなことで相談していいの？って感じるママは多くいる ・今ある支援をたくさんのママに使ってもらうためには、パパへの提案が必要 ・子連れでの病院、付き添いのハードルが高い ・産科、婦人科の不足 ・子ども医療費が高い ・救急車の数が少ない、タクシーがない ・産後に産婦人科に泊まるのはハードルが高い ・産後の悩み（母乳が出ない、子どもの夜泣き）を気軽に相談できる場がない（あるかもしれないが、知らない） ・相談はすべて電話、赤ちゃんがいるママは躊躇する

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶保健・医療・教育・福祉の連携強化と相談支援体制の拡充に向け、糸島市こども家庭センターの機能強化を図ります。 ❷専門的支援による育児の不安感・負担感の軽減や妊産婦の子育てにおける孤立を防止するための各種サービスを提供・拡充します。 ❸民間活力を生かしながら、子育て情報の提供や子育てサークル等の活動促進とネットワークの強化を図ります。 ❹乳幼児健康診査や各種相談、予防接種を実施するとともに、発達に特性がある子どもの早期発見・早期対応に努めるなど、子どもの健やかな成長を支援します。	・❸の「民間活力」とは何か？ ・頼れる人をつくる、じーじ、ばーばの活用、若者の精神的な不安をなくす、寄り添う ・産前のお母さんの不安を少しでもなくす ・アルバイトなどをできる環境を増やし、経済的不安をなくす

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）こども家庭センターへの総合相談窓口設置による子育て情報の提供と相談支援体制の強化	・父親も母親も子育てに集中できる環境整備（会社の理解など）や情報の提供 ・相談窓口を設置するだけでなく、どんな人が対応しているのかが知りたい　・口コミが知りたい ・どんなことを相談されているのか、内容が知りたい
（２）産前・産後ケアサービスや子育て教室の充実による妊産婦の孤立防止、心身の過労軽減	・アウトリーチ型の子育て支援時のアンケートを公開し、他のママも利用しやすくしてほしい ・産後ケア施設の拡充、福岡市の施設にも泊まれるような宿泊型の産後ケア ・産前から妊婦さんと出会いたい、産後訪問（アウトリーチ）だけでなく、産前から訪問できる制度をつくる ・産後ケアの周知（母子手帳交付時、新生児訪問の時だけでなく、産婦人科でも利用を勧めてもらう【糸島市、福岡市西区、福大病院など】） ・産後すぐに、ハウスキーパーやベビーシッターを利用できる制度づくり　・訪問型の子育て支援サービスの充実　・産後ケア施設の設置（母子宿泊）
（３）民間のノウハウやアイデアを活用した子育て支援センターの機能強化	・（３）の「民間のノウハウやアイデア」とは何か？　・日曜日も子育て支援センターを開所して欲しい ・パパが育児に参加したくなるパパママ教室の開催
（４）医療機関や関係機関等と連携した発達に特性がある子どもの早期発見と伴走型支援	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・赤ちゃん（出産）～高校生まで全て無償化に　・子どもを産んだらお金をもらえる仕組み　・子育ての支援、もう少し申し込みやすくなるとありがたい ・子育て支援をしてくださっている方々へのサポートや研修（寄り添い方など）　・保健師さんにもっと寄り添って欲しい ・子ども食堂の充実と食生活改善推進員の活用　・高齢者が子どもを見る体制づくり、高齢者にとっても社会性の維持につながる ・市役所、地域の助産師、産院、病院、保育園が連携する、まずは顔合わせから　・経済的な不安をなくす取組 ・本気の結婚支援サービス（現サービスの見直し） ・子ども医療費の無償範囲の拡大（福岡市に比べて弱い）、保育料（0-2歳）の無償化、給食も無償化、導入自治体は増えている ・経済の充実あっての子ども、もしくは大学の無償化　・パパが糸島の中で通勤できるように企業が欲しい　・大型総合病院の誘致（日赤、済生会等）

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（２）保育・学校教育の充実
施策	①　家庭や地域と連携した教育の充実

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①全小中学校ではコミュニティ・スクールが導入され活動を展開していますが、今後は地域学校協働活動のさらなる活性化が求められます。 ②市内全ての小学校で、スムーズな接続のために保幼小連絡会が実施されていますが、さらなる取組の充実が必要です。 ③現在、糸島市の各中学校に部活動指導員を配置するなど、部活動の地域移行に向けた推進方針を検討しています。	・休日の部活動の日に、先生が子どもを連れてきていて、育児が大変そうだった ・コロナによって地域の人との関わり減少 ・地域によって、行事が忙しくて大変なところがある、すごく差がある ・子どもたちの習い事や塾などと、地域の関わりの割合をどうするか ・昔と同じように、土日に何かやろうとしても集まらない

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶学校運営協議会と地域にある組織間の連携・協働体制を確立し、各校区の取組や活動の情報交流及び課題の共有を図り、校区の取組の活性化を推進します。 ❷こどもを中心として、保育所・幼稚園・認定子ども園や小学校及び家庭や地域が連携した活動を促進します。 ❸糸島市の中学生の持続可能なスポーツ環境の確保を目指した地域移行の取組を推進します。	・部活をしている先生のサポート、民間によるサポートとの連携の可能性 ・生徒間のコミュニケーションを深める行事を増やす ・学校の先生の負担軽減 ・コロナ禍でリモート授業を受けてきた児童・生徒を活性化させる手立てを

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）学校運営協議会委員の委員構成見直しによる組織の活性化と糸島市学校運営協議会推進委員会による地域学校協働活動の充実	・部活動指導員の制度化校区活動（地域活動）のベストプラクティスの情報発信　・地域の行事やイベントへの学校の参加 ・コミュニティスクールを一部の役員だけでなく、希望者が参加できる仕組みにする ・季節ごとのイベントを知り、地域の人々の輪を広げる
（２）こどもの権利に関する周知・啓発及び家庭や地域との連携充実を図る全小学校区での保幼小連絡会の開催	・保育園、幼稚園の年長時に、進学予定の小学校の見学をしたい（子どものみでも）
（３）糸島市中学生のスポーツ環境における推進方針を検討し、取組を推進する糸島市中学部活動推進協議会の開催	・部活動指導員の制度化
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・スクールバスの配置　・公園でのスポーツ解禁　・どんなことをするのか発信して欲しい ・地域の活性化に盆踊りを活用する、子どもからお年寄りまで、みんなで楽しめて交流できる日本のステキな文化 ・地域行事を学校などで教える

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（２）保育・学校教育の充実
施策	②　児童・生徒の学力や体力の向上

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①市全体の学力や体力は全国や県平均を上回っているものの、児童生徒の「主体的な学び」を実現するための授業改善を、さらに推進する必要があります。 ②グローバル化や予測困難な時代に「新たな価値」を生み出す資質・能力を育成するため、児童生徒の情報活用能力の向上が求められます。 ③全教科において児童生徒の「論理的な記述」に課題が見られます。また、全国学力・学習状況調査では国語、算数（数学）は全国平均を上回っていますが、英語は全国平均に達していません。	・②の「情報活用能力」とは何か？ ・運動会が５月になったので、新しい環境＋練習で子どもが行きしぶる ・小学生が帰る時間が一番暑い ・暑くて授業に集中できない（クーラーがない教室がある） ・公園が少なく、運動する場がない ・ALTの先生が来る機会が少ない ・小学校の児童数に差がある。人数が多い小学校の一人ひとりに対するフォローが必要 ・英語検定費用が高く、何度もチャレンジできない

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶全教科で児童生徒の論理的思考力を養う「主体的な学び」を実現し、学力や体力の質的向上を図ります。 ❷教師のスキルアップを図る研修の実施と特別教室及び特別支援学級における学習環境整備により、児童生徒が主体的・日常的にＩＣＴを活用することができる授業の充実を図ります。 ❸「話す・聞く・書く・読む」等の指導をバランスよく統合的に進めるとともに、英語検定に挑戦する意欲を高めることで英語力の向上を目指します。	・❶の「主体的な学び」とは何か？ ・糸島の魅力、農業、漁業、林業、畜産業などを子どもたちに伝える教育（本当に大切なのは豊かな自然である） ・英語だけに力を入れるのではなく、「一人一分野」を育てる教育 ・なぜ平均に達していないのかを考え、それを踏まえた取組を進めて欲しい ・ボール遊びができる公園の整備 ・子どもの可能性を開く教育、職場体験の充実 ・国際的に活躍できる子ども、英語教育の見直し

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）教師対象の各種研究会の実施による「主体的な学び」や学習支援ソフトの効果的な活用に係る学校間での実践交流	・ゲーム感覚やあそびの一部として英語やITスキルを学ぶ仕掛けづくり ・子どもたちの学びたいことを尊重するカリキュラムの作成
（２）特別教室及び特別支援学級の教室へのＩＣＴ機器等の整備	・パソコン機器の充実とその教育の向上
（３）児童生徒の発達段階に応じた「情報モラルカリキュラム」の作成と実践	―
（４）小学校高学年対象のオンライン英会話授業と放課後における中学校でのオンライン英語補習学習の実施	・まずは「聞く、話す」を優先的に ・英語を学ぶのも日本語を学ぶときのように、話す→聞く→書く→読むの順に、自然な流れで学習する、「話す・聞く」を重点的に ・小学校低学年からの英語学習の導入（動機付けでも）英検ジュニアの受検推進など　・ALTの先生を増やす→毎時間来れるようにする ・英語検定の対策をもっとしてほしい
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・糸島農業高校と連携を強化し、能力の高い農学後継者の育成（中学校に農学コースをつくる）　・生徒が生徒に教え合える仕組みをつくる ・書く勉強より話し合う勉強を増やしてほしい　・学校の先生のメンタル面のケアやフォロー　・子どもが生まれても戻ってきやすい学校の環境 ・ITの導入による先生の負担軽減　・国語（日本語）と英語を生成ＡＩと学習 ・大人も一緒に学ぶ場をつくり、大人も勉強を楽しむ姿を見せる　・大学生などを呼んで、一人ひとりのサポートをする

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（２）保育・学校教育の充実
施策	③　特別支援教育の充実と楽しい学校生活の創出

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①特別支援教育への理解や多様な価値観の広まりとともに、特別支援教育に対するニーズが増加し、通級による指導を希望する保護者や児童生徒が増加しているため、待機が生じることが見込まれます。 ②不登校は多様な要因が絡み合っているケースが多く、早い段階から児童生徒に対応していくことが求められます。 ③いじめの認知については積極的に進めていますが、引き続き、いじめの未然防止や早期発見・早期対応につながる取組の充実が必要です。	・不登校の生徒への対応強化 ・不登校の子の選択肢を増やしてほしい ・学校に行かない＝「発達に何かしらある」にしない ・特別支援学校の設置は良いこと、選択肢が増える、専門性による指導と交流のバランス ・インクルーシブ教育（混ぜる教育） ・多様性を受け入れる意識の共有（特に上の世代の人たちの意識をアップデート） ・子どもたちが苦しいだけの環境をつくらない

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶児童生徒の学習状況を的確に把握し、通級による指導を必要とする児童生徒が待機することなく指導を受けられる環境を創出します。 ❷児童生徒を取り巻く様々な要因や発達特性などを総合的に把握し、関係者が相互に連携できる仕組みを構築するとともに、特別支援教育コーディネーターや特別支援学級、通級指導の担当者を中心に、特別支援教育への理解力と指導力の向上を図ります。 ❸学校や不登校対応指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが相互に連携し、不登校（兆候）児童生徒に対応することで、不登校の未然防止や学校復帰への支援を行います。 ❹糸島市や学校のいじめ防止基本方針に基づいた組織的な対応の実現のために、関係機関との連携強化に取り組みます。	―

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）判定基準や指導終了の達成目標の設定等、通級指導の開始・継続・終了の仕組みづくり	―
（２）糸島市教育支援センターや県立糸島特別支援学校と連携した支援体制の強化と研修機会の充実による教員の特別支援教育への理解力と指導力を向上	―
（３）糸島市教育支援センターを中心とした関係機関の情報共有による不登校対応等の連携強化	・フリースクールなどの提案ができる仕組み、民間との連携　・不登校になっても別の居場所をつくる　・地域の居場所（常設）の運営支援 ・子どもたちが相談しやすい環境づくり（学校、地域で）　・不登校生のみのコミュニティをつくる　・子どもや親に寄り添えるカウンセラーの充実
（４）いじめを生まない学校づくりの実現を図る多様な関係機関との連携会議等の実施	・いじめ加害者への厳しい対応、ルールをつくる　・いじめに気づけるような取組
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・親の心のゆとりが子どもたちに与える影響は大きい、親の心を幸せにする取組　・学校の先生のメンタルケア ・先生が生徒と関わる時間を確保できる体制をつくる　・先生をサポートする人材の導入　・体育館にエアコンをつけてほしい ・生徒の放課後の作業時間の確保（家でできるようになど）

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（２）保育・学校教育の充実
施策	④　安全・安心に学習できる教育環境の整備

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①学校施設の約６割が、令和12年度までに築40年を迎えます。 ②働き方改革の推進や教育情報システムの導入により、教職員の超過勤務時間は減少傾向にありますが、業務のさらなる効率化を図るため、ソフトとハードの両面からの対応が必要です。	・教職員の数が少ない、先生の負担が大きすぎる ・小学校の体育館のトイレが古い ・PTAの草むしりが８月に実施される ・洋式トイレのスペースが狭い（足を入れることもできない） ・部室が使用できないときがある ・老朽化などにより、施設の利用に不便がある ・子育てが終わっているため、情報がよくわからない ・専門家による施設の定期点検が必要 ・席によって、スクリーンが見にくいところがある

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶学校施設の改修を計画的に進め、安全・安心な教育環境の整備を進めます。 ❷学校施設の整備と併せ、教職員間のコミュニケーションや情報共有が一層図られる環境の整備に努めます。 ❸教職員の業務の効率化と事務負担の軽減を図ります。	・子どもが小さい先生の働きやすさを大事にすることで、子どもたちも先生になりたいと思える ・全体的にいろいろな情報の発信をして欲しい（関わりたいが、様子がわからない） ・耐用年数は50年で計画が良い ・地域力を活用した先生の負担軽減

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）公共施設等総合管理計画第１期アクションプランに基づく学校施設の大規模改造等工事の実施	・学校内の安全施設等の定期点検の充実　・防水能力を上げる　・体育館のエアコン設置
（２）校舎大規模改造時に職員室にフリーアドレス導入を推進	―
（３）教育情報システムやその他ＩＣＴの活用による教職員の事務負担の軽減	・若い先生のサポート、中堅の先生のサポート、先生にゆとりを　・教職員の増加（⇔財政）　・モンスターペアレントの対応窓口の設置
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	―

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（３）切れ目のない学習機会の充実
施策	①　生涯学習の推進とスポーツの振興

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①図書館の蔵書数の増加や電子図書の導入などに取り組んでいますが、図書館利用者は減少傾向にあります。 ②日ごろスポーツに親しむ機会がない、もしくは機会が少ない市民に対するアプローチ不足により、スポーツに親しんでいる市民の割合は上昇していない現状があります。 ③多様な学習ニーズへ対応するため、市民の生涯学習の機会創出や、学習を通じた市民の交流を促進する必要があります。	・①の「電子図書」を知らない ・スポーツ大会が少ない ・図書館の活用（利用している人が少ない） ・生涯学習の位置付け ・コロナにより、校区における大会がなくなってしまった ・地域でボール遊びができる公園が少ない ・移動図書館の普及 ・運動公園の公園エリアの遊具が少ない ・スポーツ道具が古くて使えない ・若い世代が何のために参加するのか分からない（メリットが分からないと負担） ・スポーツイベントがない、アクセスが課題 ・図書館の蔵書数が少ない（人気の本なのに１冊など）、運動公園、コミュニティセンターのイベントが少ない（子どもが参加できる土日で単独のイベントなど） ・運動公園への車以外での交通の便が悪い

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶各年代が読みたいと思える本や電子図書の充実を図りながら、図書と触れ合う機会の拡大や図書館情報の積極的な発信に努めます。 ❷健康増進を目的としたスポーツに親しむきっかけづくりに取り組むとともに、各種スポーツ団体や市内中学校等と連携し、競技スポーツの振興やトップアスリートの育成につながる取組の充実を図ります。 ❸地域の拠点となるコミュニティセンターを中心に、生涯学習及び交流機会の創出を図ります。	・地域のスポーツ大会と子どもの習い事などとの兼ね合い。一部の人の負担にならない取組 ・スポーツ指導者の意見を聞き、施設をつくる ・市とコミュニティセンターのつながり（目標などの設定を） ・コミュニティセンターの活用（特定の人のみの利用） ・ボールなどを広々使える場所をつくる

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）定例おはなし会やイベント等の実施と図書館情報の発信強化による図書館利用者の拡大	・波多江（周船寺よりのところ）に図書館の分館が欲しい、いろいろな場所で本を返却できるようにしてほしい ・カフェ併設など、オープンな雰囲気を持った図書館をつくる（武雄図書館）　・図書館の分館、志摩、二丈にも
（２）周知の強化による電子書籍利用者の拡大	・電子図書の広報
（３）糸島市運動公園を核とした各種スポーツイベントの実施	・オリンピック選手によるイベント　・施設利用のハードルを下げる（料金、予約システム）
（４）コミュニティセンターでの各種講座の開催やニュースポーツの普及等による世代間交流の促進	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・プールが欲しい　・障がいスポーツに関する記述がない　・自習室をつくってほしい　・市民ホールを開放して勉強できるところをつくってほしい ・市民ホールの常時開放、市民が使える場に　・盆踊りを地域の振興に

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（３）切れ目のない学習機会の充実
施策	②　青少年の健全育成

現状と課題	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①子どもたちの豊かな感情、好奇心、思考力などの育成につながる集団での外遊びや、生活体験・自然体験などの機会が減少しています。 ②家族形態の変化や地域コミュニティの希薄化が進み、家庭や地域の教育力が低下している傾向にあります。 ③急激に変化する社会の中で、高い志と意欲、柔軟な発想を持った人材育成が必要です。	・ネット化の問題、スマホ ・地域活動に参加させたいけど、親も休日は忙しくて参加させることが難しい

施策の基本方針	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶異年齢の仲間や地域の大人との交流など、人と人とのつながりを重視した、様々な体験活動を充実します。 ❷家庭・地域・学校などが連携し、地域全体で子どもを育む環境づくりを推進します。 ❸将来を担うリーダー育成のための取組を充実します。	・集団生活の減少しているため、体験機会を増やして欲しい ・やり方を新しくする、令和の形の育成会やPTAの提案 ・地域と連携した安全活動の活性化（南風校区モデル） ・異年齢交流の復活（小⇔中の交流、幼⇔小の交流） ・リーダー育成等について、糸島全体で統一感を持たせては？ ・子どもの未来を応援する、地域の大人とのマッチングシステム ・体験や活動ができる施設をつくる

主な取組	
素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）地域の各団体と連携した子どもたちの様々な体験活動の充実	・安心して職場体験ができる機会を増やす　・地域のおじいちゃん、おばあちゃんと子どもを対象とした糸島の自然体験、山登りなど ・地域の人と昔遊びなどをし、知恵などを増やす ・地域のおじいちゃん、おばあちゃんと遊ぶ機会をつくる、昔遊びをしたり、将棋をしたり、行事あそびなど ・地域のじーじ、ばーばと若い子どもたち、うまくマッチしてコミュニケーションを取り、じーじ、ばーばの魅力を伝える
（２）子ども会育成会やＰＴＡなどの社会教育関係団体の活動支援・促進による青少年の健全育成	・子ども会やPTAの活動内容があまりオープンではない、小学校のHPで公開すれば地域との連携が取りやすい
（３）青少年育成校区民会議との連携による地域防犯パトロールや、子どもの健全育成のための環境づくりの推進	・高齢者による交通安全見守りボランティア　・見守り隊などの活用についての記述は必要ではないか？
（４）中学生を対象とした郷土愛の醸成や、社会性を身に付ける研修による次世代リーダーの育成	―
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・中学生に赤ちゃんが泣くという体験をしてもらう授業を復活させてほしい　・遠方からの通学困難者に対する支援 ・スマホ、SNSについての勉強は必要ではないか？　・主な取組を具体的に（地域差があり、まとめが必要）

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

基本目標１	未来社会で輝く子どもを育むまちづくり
政策	（３）切れ目のない学習機会の充実
施策	③　文化・芸術の振興

現状と課題

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
①子どもたちの情操を育むとともに、市民生活をより心豊かなものとするため、文化・芸術活動を盛んにすることが求められます。 ②市内には８ヶ所の国指定史跡がありますが、中長期的な視野で、計画的に保存・整備に取り組むことが必要です。 ③伝統的な民俗行事等については、高齢化や過疎化などにより継承者が不足しているため、継続的な支援が求められます。 ④重要文化財公開承認施設である伊都国歴史博物館を適正に維持・管理しながら、文化の拠点としての機能を発揮していく必要があります。	・文化や芸術に興味を持たない子に、どのように情報を与えるか ・糸島学を学んでいることは素晴らしい ・山笠などには、地の人しか参加できなさそうな雰囲気がある ・「糸島と言えば…」でつながる文化、芸術が少ない ・市民参加型の音楽イベントを、サンセットライブの終焉、チケット高、１日12,000円 ・大きなお祭りがなく、活気に欠ける

施策の基本方針

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
❶市民が優れた文化や芸術に接し親しむ機会を創出します。 ❷国指定史跡の適正な保存・管理と史跡を生かした取組を進めます。 ❸無形民俗文化財などの調査を実施し、文化財の指定を進めます。 ❹伊都国歴史博物館などで開催しているイベント等を充実させ、来館者の拡大を図ります。	・芸術（糸島に住んでいる人、モノ）を子どもたちに知らせる ・子どもたちが文化・芸術にどう触れるかが必要では？ ・イベント情報が知れるものの充実 ・交通面をもっと充実させてほしい ・糸島の芸術者を知ることにより、子どもたちの進路につながる（支援学校） ・学校カウンセリングの一つを「文化とつなげる施策」などとして欲しい ・学校で糸島の文化に触れさせる ・糸島のアートや音楽などが楽しめる施設があったらよい ・若いアーティストを育てる取組

主な取組

素案（たたき台）	まちづくり市民委員会の意見
（１）糸島市文化芸術推進基本計画に基づく文化・芸術に触れ合う機会と市民等の発表の場の拡大	・歌舞伎などのイベントを市内で安価に実施　　・糸島の文化を散策する
（２）民間活力を生かした史跡等の保存・管理と観光と連携した史跡の有効活用	―
（３）文化財指定を受けた無形民俗文化財の担い手育成の支援	・神楽を青少年に見せる機会を増やす、担い手の育成
（４）博物館等での特別展・企画展、歴史講座や体験講座の充実	・幅広い世代を対象としたイベントの充実 ・親が知らないので子どもに教えられない、博物館に行きたくなるイベントの開催（ものづくり体験などの充実【日曜あり】） ・糸島博物館みたいなものを各所につくる　　・座学だけでなく、実際に行って体験したい
（５）「いとしま学」などを活用した取組の充実による子どもたちの郷土愛の醸成	・いとしま学と職場体験、キャリア教育が一体となったプログラムづくり ・「いとしま」の知名度は高い、住んでいるところは糸島と自信を持って言える「糸島気質」を持ちたい、広報活動の強化、メディアへのPR
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・周知方法の充実

● 第２回まちづくり市民委員会で出された意見等

―	―
重点課題１	**子育て・教育環境の充実**
施策	**“地域とつながる”子育て応援プロジェクト**

現状と課題	
素案（たたき台）	**まちづくり市民委員会の意見**
①放課後子ども広場事業に取り組んでいるものの、国が目指す「全ての子どもたちの安全・安心な活動場所の確保」までには至っていない状況です。 ②協定締結大学による各種講座は児童生徒の「社会と関わる・つながる力」の育成に寄与しているため、取組を継続する必要があります。	・ベビーカーで通ると道がガタガタな箇所がある ・１-３歳を対象とした遊具がある公園が少ない ・児童クラブに九大生が来るとかは難しいか？学校併設の児童クラブは遊びが中心になっている ・学校の中で何があっているかわからない状況で、関わりたいけど関われない、地域の運動会なども減少し、情報が届かなくなっている ・学校の先生はポジティブに取り組めばいいのに、保護者に遠慮している、我が子が通っていなくても地域の人が参観に来てくれていた、今も赤ペン先生で、〇付けに行ったりしている

施策の基本方針	
素案（たたき台）	**まちづくり市民委員会の意見**
❶地域の実情に合わせた放課後子ども広場をはじめとした取組を進めながら、子どもが安全・安心に過ごせる環境づくりを推進します。 ❷子どもたちが社会性や人間性を身に付けるため、中学生・高校生・大学生などとの多世代交流を促進します。	・糸高前駅近くの公園のように、遊んでいて車との接触がないような公園をつくる ・子どもが笑顔で過ごすためにも、産後のママ、パパの環境大事であり、全てそこにつながると思う ・ボールが使える公園が増えてほしい ・九大生をもっとフル活用する ・児童クラブ施設の充実、スタッフの待遇改善 ・児童クラブなど、子どもを見守る施設を充実させる

主な取組	
素案（たたき台）	**まちづくり市民委員会の意見**
（１）放課後等に多様な体験・活動を行う放課後子ども広場などの実施	・負担なく行きたいと思えるような宣伝、外部企業への依頼　・専門家と市でパイプをつくり、子どもとマッチングしてイベントづくり ・地域の人を呼んで、放課後に講座を開いてもらう ・子ども広場に九大の学生を呼ぶなど、毎回同じことをするのではなく、いろんなことができる場にする
（２）協定締結大学による講座の継続・拡充	・大学生と共同研究をする機会をつくる
※ 素案（たたき台）に記載のない取組	・すごくいいことに取り組んでいるので、その良さが届いてほしい、当事者に届く方法　・糸島版「はじめて箱」の取組 ・子育てサロンの日程以外でも、いつでも気軽に遊びに行ける場所の設置 ・子どもたち（小中高生）の仕事体験、将来行いたいことを体験できる常設の場づくり ・子どもから大人まで、いろいろな人が集まる場所づくり　・静の取組、心を落ち着けて、心のあり方を大切にする